

早生樹の活用に関する基礎的技術開発事業

－ウラジロエノキ M スターコンテナ苗の育苗方法に関する試験 1－

育林・林産班 井口 朝道・玉城 雅範

1. 目的

ウラジロエノキは、ニレ科の常緑高木で、生長が早い沖縄を代表する早生樹種の1つである。材は、軽くて加工性に優れ、また乾燥も早く、割れや狂いも少ないため、学童机の材料としても利用されるなど、需要が見込まれており、近年では造林樹種として植栽されている。

これまで、採取適期や発芽率等、育苗技術に関する研究は、沖縄県森林資源研究センターにおいても一定程度行われてきたが、苗木の生長量等に関するデータの蓄積は、未だ不十分なことから本研究を実施した。

2. 材料と方法

1) 発芽試験

種子は、2019年9月4日に、沖縄県名護市の森林資源研究センター内の樹木園に自生するウラジロエノキ2本(No120, No121)から、黒く熟したものを採種した。同日、採取した種子は、果肉を取り除いた後、用土(ココソイル9:パーライト1)を1本当たり約640ml 充填したMスターコンテナ容器に1鉢2粒ずつ蒔き付けし、ガラス室内で12月24日まで発芽率を測定した。また、基肥としてハイコントロール700を用土1リットルに対し5g(N換算値で0.5g/鉢)を施用した。なお、作成したMスター苗は200鉢(No120:120鉢, No121:80鉢)で、計400粒を播種した。

2) 苗高調査

試験1)で得た苗木を用いて、2019年12月24日、及び播種後半年が経過した2020年3月4日に苗高を計測した。なお、発芽調査終了後に、生長量が大きいものから順次、コンテナ苗1鉢につき1本になるように整理し、また十分に灌水が行き渡るよう苗の間隔をあけた。

3. 試験結果

1) 発芽試験

2019年9月17日～12月24日までの採種木別の発芽率を図-1に示す。いずれも播種後約1年半が経過した10月17日の時点では、発芽率は50%を超え、最終的には70～80%程度と高い値を示し、採取木による大きな差は見られなかった。

2) 苗高調査

期間中の平均苗高の生長の経過を図-2に、2020年3月時点の苗高を図-3に示す。発芽した苗については、順調な成長を示し、播種後半年が経過した時点では、いずれの採種木においても75%

は約 7cm を超える程度に生長していたが、一般的に造林に供することが出来る苗高 30cm を超える個体はなかった。なお、3 月時点の苗高において、採種木別に関一元配置分散分析を行ったが、有意差は確認されなかった。

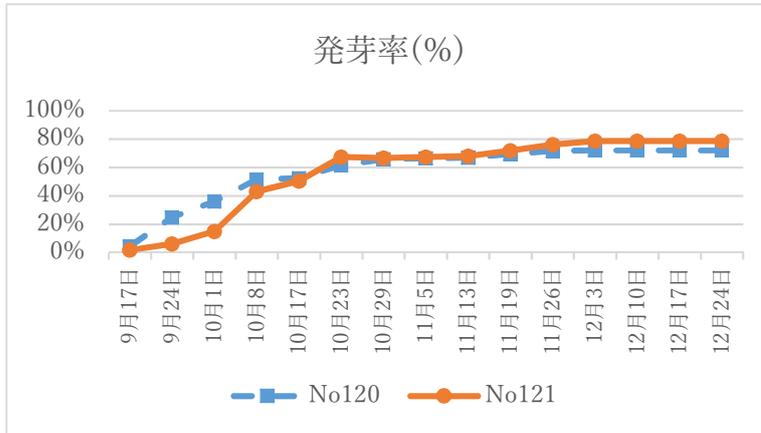


図-1 採種木別の発芽率(%)

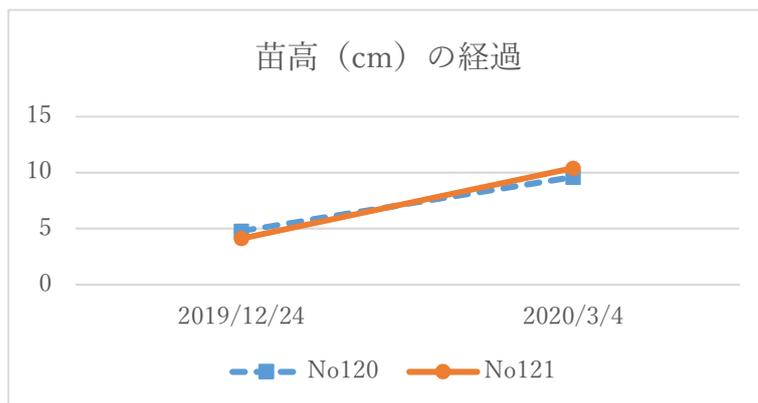


図-2 採種木別の平均苗高 (cm) の経過

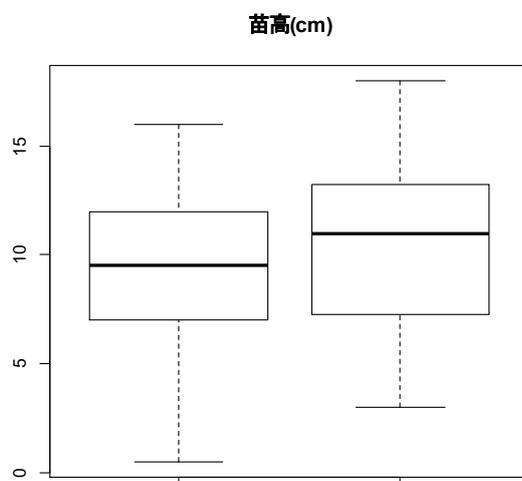


図-3 2020年3月時点の苗高 (cm)